

三年生 国語 学習プリント



三年 組 名前

古典 『学びて時にこれを習ふ——「論語」から』

教科書P 32 ～ 34

○人間の生き方についての孔子の考え方を自分たちの生活と関連付けて考えよう。

1 教科書P 32の本文と、P 34の「出典」を読み、「論語」について確認しよう。

① 「論語」は、（ ）（ ）と、その弟子たちの（ ）（ ）である。

② 孔子は、中国古代の（ ）（ ）であり、（ ）（ ）（ ）（ ）を高めることによって世を治めることを理想とした。

③ 「論語」に収められた短い言葉の中には、（ ）（ ）（ ）の鋭い観察や深い（ ）（ ）（ ）が込められている。

2 次に示す四つの章句を声に出して読んでみよう。(□にチェック)

□ 学びて時にこれを習ふ、また説よばこしからずや。朋とも遠方より来たるあり、また樂らくしからずや。人知らずして慍うらみず。また君子ならずや。

□ 故いまきを温めて新しきを知れば、ももつて師したるべし。

□ 学びて思おはまざれば則すち罔くらし。思いひて学まばまざれば則あやまし。

□ これを知る者は、これを好む者にし如かず。これを好む者は、これを楽しむ者に如かず。

📖 歴史的仮名遣い(一年生)、書き下し文(二年生)も確認しましょう。

3 次の章句について、考えてみよう。

故いにきを温ぬめて新あらたしきを知しれば、ももつて師したるべし。

① この章句から生まれた四字熟語を考えてみよう。

② この章句を書き下し文から、訓読文にしてみよう。

温故而知新、可以為師矣。

4 次の四つの章句の意味を、教科書の脚注などを参考にしてみよう。

学まなびて時ときにこれこゝろを習まなぶ、また説ことばばしからずや。朋とも遠とほ方かたより来きたるあり、
また楽たのしからずや。人ひと知らずして慍うらみず。また君子くんしならずや。

【意味】

故いにきを温ぬめて新あらたしきを知しれば、ももつて師したるべし。

【意味】

学まなびて思おもはざれば則すなわち罔くらし。思おもひて学まなばざれば則すなわち殆あやし。

【意味】

これを知る者は、これを好む者に如しず。これを好む者は、これを楽しむ者に如しかず。

【意味】

⑤ 「論語」から、生活に生かしていきたい章句を選び、どのように生かしていきたいかまとめよう。

① 選んだ章句を抜き出して書こう。

② どのように生かしていきたいか、自分の考えを書こう。

⑥ 今までに出会った言葉の中で、自らを励ます言葉、友達や後輩に贈りたい言葉を思い出してまとめたり、「論語」の他の名言を調べてまとめたりしてみよう。

① 選んだ言葉を抜き出して書こう。

(ことわざ辞典や名言集を調べたり、インターネット等で検索したりしよう。)

② 自らが励まされる理由、友達や後輩に送りたい理由を書こう。

三年生 国語 学習プリント

三年 組 名前



古典 『学びて時にこれを習ふ——「論語」から』

教科書 P 32 ～ 34

○人間の生き方についての孔子の考え方を自分たちの生活と関連付けて考えよう。

① 教科書 P 32 の本文と、P 34 の「出典」を読み、「論語」について確認しよう。

① 「論語」は、(孔子)と、その弟子たちの(言行録)である。

② 孔子は、中国古代の(思想家)であり、(人格)や(道徳)を高めることによって世を治めることを理想とした。

③ 「論語」に収められた短い言葉の中には、(人間の生き方)についての鋭い観察や深い(思索)が込められている。

② 次に示す四つの章句を声に出して読んでみよう。(□にチェック)

レ 学びて時にこれを習ふ、また説ばしからずや。朋遠方より来たるあり、また樂しからずや。人知らずして慍みず。また君子ならずや。

レ 故きを温めて新しきを知れば、もつて師たるべし。

レ 学びて思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し。

レ これを知る者は、これを好む者に如かず。これを好む者は、これを楽しむ者に如かず。

🏠 歴史的仮名遣い(一年生)、書き下し文(二年生)も確認しましょう。

③ 次の章句について、考えてみよう。

故きを温めて新しきを知れば、もつて師たるべし。(書き下し文)

① この章句から生まれた四字熟語を考えてみよう。

温
故
知
新

② この章句を書き下し文から、訓読文にしてみよう。

温^{メテ}故^{キラ}而^レ知^{レバ}新^{シキラ}、可^二以^レ為^レ師^{タル}矣。

④ 次の四つの章句の意味を、教科書の脚注などを参考にしてみよう。

学びて時にこれを習ふ、また説ばしからずや。朋遠方より来たるあり、また樂しからずや。人知らずして慍みず。また君子ならずや。

【意味】
例：学問を機会があるたびに自分自身で学ぶこと、友人と学問について語り合うこと、学問によって自分の人格が完成していくことに意義があり、喜びがある。

故きを温めて新しきを知れば、もつて師たるべし。

【意味】
例：先人の述べた学説などを繰り返し研究して、一方で新しい意義を発見できれば、人の師となる資格がある。

【意味】
例：学ぶことと考えることはどちらも重要で、一方が欠けたり、偏ったりしてはならない。

これを知る者は、これを好む者に如かず。これを好む者は、これを楽しむ者に如かず。

【意味】
例：何事も、それを知っているというだけでは、それを好む人に及ばず、好むということは、それを楽しむ人には及ばない。

- ⑤ 「論語」から、生活に生かしていきたい章句を選び、どのように生かしていきたいかまとめよう。

- ① 選んだ章句を抜き出して書こう。

例：これを知る者は、これを好む者に如かず。これを好む者は、これを楽しむ者に如かず。

- ② どのように生かしていきたいか、自分の考えを書こう。

例：物事を知っているだけの人よりも、好きでいたり、経験したりしている人の方が、くわしいと思う。「好きこそ物の上手なれ」ではないが、学んだことや知ったことを、好きになったり、楽しんだりできるくらい熱心に打ち込んでみたいと思った。

- ⑥ 今までに出会った言葉の中で、自らを励ます言葉、友達や後輩に贈りたい言葉を思い出してまとめたり、「論語」の他の名言を調べてまとめたりしてみよう。

- ① 選んだ言葉選んだ言葉を抜き出して書こう。

(ことわざ辞典や名言集を調べたり、インターネット等で検索したりしよう。)

例：義を見てせざるは勇無きなり。(「論語」より)

- ② 自らが励まされる理由、友達や後輩に送りたい理由を書こう。

例：分かっているけど、なかなか勇気がでないことがよくあるけど、本当に大切なことは何かを自問自答できる言葉だから。

(なぜその言葉を選んだのか、その理由を書いてみよう。)